

< 参観報告1 愛知淑徳高校「現代社会」1年生論文発表会 > 2月16日午後

本校からは田岡、谷、渡邊美、佐藤の4人が参観しました。1年生7クラスの生徒ほぼ全員がポスターセッション形式で発表し、発表時間帯でない1年生と中3全員が聞きたい発表のポスターで聞く形式で、400人近い生徒と保護者で会場はごったがえしています。

前日に発表生徒名と発表テーマを見て、どこにいくか随分迷いました。約250名のテーマは多様で聞きたいものがたくさんあるのに、一人の発表(発表10分、質疑応答5分)を完全に聞こうとすれば最大でも6名分しか聞けません。そこで私自身が興味を持った「なぜ名古屋は”芸どころ”といわれるか」「なぜ日本語は変化するのか」などを聞きました。言葉に関する発表がいくつかあり、「日本語と韓国語の関係」も聞きたかったのですが聞き逃しました。「Why different languages develop?」は英語圏から来た生徒が英語と日本語で発表をしました。ザメンホフ博士が作った人造世界共通語の「エスペラント語」については知っていたのですが、「リングワ・フランカ」という共通語については彼女の発表で初めて知りました。(逆に彼女はエスペラント語のことは知りませんでした。)



発表者はA4で14枚の発表要旨を掲示板に貼り、それをもとに発表します。左の写真は「なぜ日本語は変化するのか」です。テーマ設定の理由は「家族と話す時はしっかりした日本語なのに、友達と話す時は砕けた日本語。古典の授業で学習する日本語と現在の日本語が違う」ことに興味を持ったとのこと。歴史的には奈良時代に使われていた神代文字を紹介し、その後中国から取り入れた漢字を日本語の音に合わせて使用する時代、平仮名の発明、片仮名の発明へと進みます。最近の女子高生がSNSで使用する言葉ランキングが半年くらいでがらっと変化するというのは興味深かったです。「あ〜ね」「わず」「卍」などなど、私には意味不明な女子高生言葉は解説を聞いても意味不明でした。「ヤバイ」くらいは良く聞きますがこの言葉も多義的ですね。参考文献一覧を見てもいろいろな本を読んでいることがわかります。このような学習は既に8年目とのことですが、淑徳の豊島先生の話では個別の相談を3回行い学習の進展をはかること、生徒の興味に対応する図書の実室に心がけ、生徒の図書室利用も増えたそうです。「現代社会」という枠を超えたテーマも多く、担当する教員にも苦労があるようですが、生徒の興味を最大限活かす学習で教員の視野も広がったようです。

{渡邊実恵先生の感想} まず、一番最初に感じたのはテーマの多様性でした。現代社会という科目でありながら科学的な内容を扱ったものもあり、理科教員としてもとても楽しみました。各個人が自分の発表に自信を持っているのも印象に残っています。それだけ深く調べたからこそ、自信を持って自分の研究として発表できたのだと思いました。テーマ決定の方法やこだわりを持たせるために教員側がどのような仕掛けをしたのか詳しく知りたいと思いました。

{谷侑香里先生の感想} 最近の発表は、パワーポイントなどの電子機器にこだわる人が多いですが、紙をつかうアナログな発表もアリだなと思いました。発表の中で、先に述べたことを瞬時にさかのぼって見直ししながら説明することもできて、わかりやすさもありました。卒論の中間発表では、こういったスタイルを取り入れても良いのかも感じました。生徒の発表で一番驚いたことは語彙力です。使う言葉が違う。そして、一人一人のテーマが多岐にわたっており、それを指導する先生方の力量にも驚きました。

< 参観報告2 授業改革フェスティバル 「リアル予算委員会」 > 2月19日午前

授業改革フェスも興味深い企画やレポートが百花繚乱で迷いました。授業改革に積極的に乗り出した高フェスのこの企画を参観しました。何が「リアル」か？家でダビングしている時、予算委員会委員長役の生徒が発する「伊藤文部科学大臣」という声が実にリアルで、国会中継は欠かさず見る妻が台所から飛んできたほどでした。



予算委員会では首相からの「20兆円の使途を各省から要求して欲しい」という提案を受けた各大臣による説明と質疑応答が続きます。伊藤文科大臣からは高校の完全無償化が、栗山リンダ厚生労働大臣からは「待機児童0」のために保育所の確保と保育士の待遇改善などが提案されました。一番議論になったのは通産大臣からの「高校教師リストラによる人件費削減と教師ロボット(単価2億5千万円)の配置」提案。参加した生徒が予算委員を演ずるのですが、「個性を伸ばすことがロボットに出来るのか?」「HR指導がロボットに出来るのか?」「メンテナンス費用が抑制

する人件費を超えるのではないか?」など質問・意見が続出し通産大臣が立ち往生する場面も。

全体説明の後、参加生徒が班に分かれ20兆円をどう配分するのかを討論し、円グラフに色分けしていきます。各大臣の説明を1人1人がどう思ったのかを出し合い、意見の違いを話し合い、班としての合意を作っていきます。右の写真は各省庁の配分額を色分けしているところですが、さすがに通産省からの「ロボット教員導入」は「ゼロ査定」の班がいくつもありました。「ロボット教員導入」に予算を配分した班も「いきなり4000校に導入ではなくテスト導入して効果を検証すべき」という結論でした。



余談ですが、1年3組の栗山リンダさんは黒のリクルートスーツに身を固め、文科大臣の伊藤さん(金城)は「稲田さんのイメージでお母さんから服を借りました。」とのこと。内容的な「リアル」だけでなく、服装にも「リアル」さを求めたカーニバル化された模擬授業でした。

18歳選挙権実施を機会に生徒達は模擬投票や模擬選挙など、「主権者教育・学習」を求めています。単なる「アクティブ」でなく「リアル」(=ほんもの)に接近する「アクティブ・ラーニング」で、しかもカーニバル化された授業の創造。授業改革フェスで学んだことが本校でも試行されていくと良いですね。

なお、「リアル予算委員会」はDVDに焼いて保存しています。ご覧になりたい方はご連絡下さい。

< 余談 > 久しぶりに改築なった母校の名古屋(学院)高校のなかに入りました。エントランスが開放的で広くゆったりとしています。採光に工夫がされていてとても明るく感じます。私の「灰スクール」時代とはえらい違いです。淑徳の校舎やアリーナを思い出しながら、愛知黎明高校の明るい新校舎とそこに通う生徒達の明るい笑顔を想像したりしました。